



内閣府男女共同参画局のご紹介

～ ジェンダー平等に取り組む機関の紹介 Part2～

ジェンダー平等や男女共同参画の推進に取り組んでいるのは、パレア松本だけではありません。世界中、そして日本中に様々な機関があります。今回は、「内閣府男女共同参画局」をご紹介します。

どんなことしているの？

日本において、あらゆる分野での女性の参画の機会の拡大や、固定的な性別役割分担意識の解消に向けた取組み等、男女共同参画社会・ジェンダー平等社会をつくるための様々な取組みを行っている国の機関です。

これらは「男女共同参画基本法」や「男女共同参画基本計画」に基づいて行われています。

いつ設置されたの？

2001年（平成13年）の内閣府の設置に伴って、それまでの男女共同参画室から男女共同参画局に格上げされ、設置されました。内閣府は、複数の省庁にまたがる重要な政策を総合的に調整するため、他の省庁よりも上位に位置付けられています。

担当大臣もあり、現在の大臣は加藤鮎子さんです（9月13日～）。

もっと詳しく知るには？

男女共同参画局のホームページがあります！

また、男女共同参画局が発行している「共同参画」という機関誌があります。ジェンダー平等のトレンドやニュース、国の取組み等が紹介されていますので、是非、読んでみてはいかがでしょうか。ホームページで見られるほか、女性センターの交流フロアにも紙冊子が配架されています。バックナンバーもありますので、お気軽にご利用ください。



次回は国内の男女共同参画の拠点を紹介する予定です。

リクエストにつき、世界編をお送りします！

ジェンダー平等の扉を開いた偉人紹介 Vol.12

ジェンダー平等に尽力した世界の偉人をご紹介します

エリザベス・ブラックウェル (1821~1910)

教師、医師。

イギリス生まれ。世界で初めて公的に「医師」と認められた女性。最初は家計を支えるために教師として働いていたが、友人を子宮がんで亡くしたことをきっかけに医師を目指した。

女性が安心して医療を受けられる体制を整えたり、女子医学校の設立等に尽力したりした。



今月知っておきたい言葉

過去最多女性閣僚5人

9月13日発足の第2次岸田再改造内閣に入閣した女性の人数。

5名の女性大臣は、2014年の安倍改造内閣に並んで過去最多となり、25%を占める。

ただ、世界を見渡すと、フィンランド、スペイン、ドイツ等、50%を超える国々も珍しくない。

一方で、副大臣や政務官には女性は皆無で、対照的な結果となった。



新着図書のご紹介



パレア松本には図書コーナーがあります。どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。



『男尊女卑依存症社会』 (齊藤 章佳著、亜紀書房、2023年)

精神保健福祉士・社会福祉士の著者が、「日本の依存症の根っこにはジェンダーの問題が潜んでいるのではないか」という視点から、様々な依存症を取り上げる面白い1冊。この本を読むと、いかに日本人が残念なことに「男らしさ・女らしさ」に苦しみながら生きているか痛感させられます。

『明治のナイチンゲール 大関和物語』

(田中 ひかる著、中央公論新社、2023年)

金のための卑しい仕事とみなされていた看護婦という仕事を、なくてはならない尊い職業に導いた2人の女性たちの物語。女性が働くことが特別視された時代に、「良い仕事」をしたいという彼女たちの心意気が伝わります。



このニュースレターは、松本市公式ホームページでも見るすることができます。

Facebook、X (旧 Twitter) もやっています！

松本市女性センター



<編集・発行>

松本市 人権共生課 (松本市女性センター)

〒390-0811

松本市中央 1-18-1 Mウイング3階

TEL 0263-39-1105 / FAX 0263-37-1153

✉ kyousei@city.matsumoto.lg.jp